

### 3年生「ホタル祭りについて考えよう」1学期実践のまとめ

#### 1. 単元の実践の具体

##### (1) 本時まで

- ①あけまち学習の始まりであり、学び方を学ぶ。  
社会科とリンクして、牟礼南でなく旧牟礼町全体のよいところをインタビューで見つける。  
地図と写真資料を背面に掲示する。
- ②学校の有名なところは？  
ホタル祭りを取り上げ、参加経験者、ホタルから連想したよさをブレインストーミングで思考を広げる。
- ③牟礼南小HP「ホタルの放流」、「かがやきの里・ホタル小屋の写真」、「ホタルがさなぎになる新聞記事」「映画&ほたる祭り」の資料を用意し、調べたいことや知りたいことを収集する。
- ④理科「チョウを育てよう」で一人一匹は育てる。子どもの思いと飼育観察の記録（輪番制）を、掲示する。
- ⑤調べ方（インタビュー、本、インターネット）を知り、まず、本で調べる。（この時期、昆虫やホタルの本を図書館司書の先生が借りてくださる。）
- ⑥高田さんに来ていただき、本では、解決しなかった実際のホタルの飼育について、教えてもらう。（子どもの疑問を事前に渡して答えを用意しておいてもらう。）
- ⑦ホタルについて分かったことをポスターにして、ホタル祭りへの参加を呼び掛ける看板を児童玄関に置く。当日は、体育館前に掲示し保護者からの言葉をもらう。
- ⑧ホタル祭りについてのアンケートを取る。参加予定人数について調べ、算数「表とグラフ」の学習を関連させて、グラフにまとめる。
- ⑨ホタルのエサをとって、洗っている役員さんに手紙を書き、飼育の願い・思い・苦労について知る。

##### (2) 本時

###### ○問いと見通し

資料「手紙の返事」と「アンケートの集計結果」から、役員さんの願いとホタル祭りの参加者数のズレについて、問題意識を持たせたかった。

▲もっと、「なんで来る人が少ないんだろう」と思わせる工夫が、必要。子どもの前向きな気持ちを引き出す問いを用意するべきと指導があった。

###### ○グループ活動の充実

国語の学習を活かして、ペアで気付いたことをかわるがわる言って、あいづちを打ち、話を続ける活動を設定した。ここで、参加者が思ったより少ないねという意見を出してほしかった。

解決策を考える時に、グループで話し合いを設定した。

###### ○表現力

###### ○振り返り

①ホタルにとって居心地のいい場所にすることと②もっと、ホタルについて宣伝するという意見がだされ、今後の活動方針が決まった。

##### (3) 本時後

- 今年、かがやきの里の草取り、かがやきの里の手入れについてのアイデアなどの活動をした。
- 卵や、ホタル小屋に入れる前の幼虫の観察をさせてもらった。
- 宣伝活動については、ホタルすごろくづくり、ポスター作り、テレビ放送の画面や原稿づくり、4コマづくり、といったアイデアが出され、班で取り組んでいたが、発表は、2月の放流の頃が横ろうということにして、置き置きしている。
- ホタルとぼそう委員会という名のもと、温度管理の手伝いを高田さんについてもらって週に1回常時活動としてさせてもらった。

## 2 成果と課題

- 教科横断的な学習を上手く設定できる総合的な学習であった。
- 高田さんというゲストティーチャー、本部の方、保護者とかかわりが持てたことで、調べる活動、表現することについて意欲が高まった。
- ▲ 指導があったように、本時の活動は、停滞気味だったので、導入の工夫が必要で、もっと子供自身が意見を出す仕掛けになるようにする。

